

「意志」ある所に「道」あり

ちかし REPORT

県議会議員「斉藤ちかし」が故郷の明日を考える。

VOL.05
2016.3月発行

活動日誌 (2015年)

2月下旬 県議会本会議

第281回定例会・2月24日開会、3月24日閉会

4月初旬 青森県議会・統一地方選挙

4月3日告示、12日投票。
おかげさまで持ちまして無事2期目の当選を果たすことができました。真摯にうけとめ、皆様のご期待にお応えできるよう一層の努力をまいります。

6月中旬 県議会本会議

第282回定例会・6月15日開会、6月30日閉会
2期目になって初の一般質問をさせていただきました。あおり米「青天の霹靂」の生産体制・県産米の輸出促進・子供の医療費無料化などの問題について質問させていただきました。(詳しくは中面をご覧ください)

7月初旬 総務企画委員会県内調査 (西北・中南地区)

7/8 視察 深浦町
「十二湖セラピー基地健康ソリズム推進事業」
つがる市
「農産物直売所整備事業」

7/9 視察 五所川原市
「揚水ポンプ・防災トイレ等整備事業」
弘前市
「津軽手わざ職人生業促進事業」
田舎館村
「田んぼアート駅の開業状況」
「田んぼアートの活用事業」



7月下旬 第5回 県政報告会

7月22日・毎年恒例の県政報告会を今年も地元の「岩木文化センターあそべる」にて開催させていただきました。皆様からたくさんのお言葉いただき、感謝とともに住みよい街づくりのため、さらに躍進してまいります。

9月初旬 総務企画委員会県内調査 (東青・下北・道南地区)

9/8 視察 今別町
「奥津軽いまべつ駅開業に向けた取り組み」
むつ市
「むつ湾フェリー乗船・むつ市大湊地区の北の防人(さきもり)大湊安渡館・海望館」
(むつ市地域活性化の取り組み)

9/9 視察 風間浦村
「下北地域健康なまちづくり事業」
佐井村
「北海道新幹線開業対策関連事業」

9/10 視察 新函館北斗駅にて
「北海道新幹線・新函館北斗駅の概要」
「函館総合車両基地の概要」など



9月中旬 県議会本会議

第283回定例会・9月19日開会、10月5日閉会

10月下旬 総務企画委員会県内調査 (三八・上北地区)

10/27 視察 三戸町
「感動を呼ぶ着地型旅行商品創出事業」
八戸市
「私立高校の特色ある取り組み」

10/28 視察 十和田市
「十和田市地域活性化の取り組み」
「町並み模型制作事業」
「観光情報発信環境整備事業」
三沢市
「三沢航空科学館の取り組み」など

11月下旬 県議会本会議・質疑通告内容

第284回定例会・11月24日開会、12月9日閉会
今回は議案等に対する質疑をさせていただきました。(詳しくは中面・裏面をご覧ください)

ちかしのPOINT!!

廃棄物対策費について

11月 第284回 定例会

Q 八戸市櫛引地区の不公正処理 事案に係る行政代執行について

Q1 平成13年の改善命令以来、およそ十数年、ようやく結論や対応が定まってきたようですが、この代執行に係る今後の具体的なスケジュールについてお伺いいたします。

A (環境生活部長) 今回の行政代執行に要する経費につきましては、補正予算案として本会議に計上し、御審議いただいているところでございます。補正予算の成立後、入札及び契約に係る手続を経て、28年9月末までの工事の完了を目指しております。

Q2 以前に説明があった工事費より、今回かなり増額になっておりますが、その理由と県の実質負担額は幾らになっているのかお伺いいたします。

A (環境生活部長) 廃棄物の土質試験や堆積状況の調査を実施した結果、事業地内に堆積した廃棄物をもろくて崩れやすい性状であることが判明しました。このため、補強土壁でかさ上げする必要が生じたことなどから、結果として、約6億1400万の見込みとなりました。

Q3 県税が使用されているわけですが、さまざまなことを踏まえると、原因者への代執行の求償を当然求めていくべきだと考えますが、どのように求償を行っているのかお伺いいたします。

A (環境生活部長) 行政代執行は、原因者が実施しなければならない措置を県が公費で負担してかわりに実施するものです。したがって、行政代執行に要した費用につきましては、廃棄物処理法に基づき、全額を原因者に対して求償していくこととなります。

他にもこのような質問をさせていただきました

6月 第282回 定例会

- 青森りんごの生産対策について
- 青森空港国際線の利用促進について
- 国民健康保険制度の改正について
- 日本創成会議が提言した東京圏高齢化危機回避戦略について
- 白神山地の利用と保全について

11月 第284回 定例会

- 児童福祉総務費
あおり子育て応援バスポート発行事業費の取組等について
- 専決処分した事項の報告の件 (和解の件)
県営住宅家賃の滞納について
- 青森県風俗営業許可申請手数料等の徴収等に関する条例の一部を改正する条例案改正の概要について

◆◆◆ 今後の予定 ◆◆◆

「第6回 県政報告会」開会

7月中旬・岩木文化センターあそべるにて!

ちかしREPORT VOL.6

2017年3月発行予定となっております

次世代を担う子供たちが、故郷に誇りと愛情を持って暮らせる街にしたい

斉藤ちかし事務所 〒036-1325 弘前市一町田字村元712-4
TEL 0172-82-3202 FAX 0172-82-3103 URL <http://www.chikasi.com/>

Profile 昭和45年生まれる。岩木小学校、津軽中学校、県立弘前高校卒業。
平成15年旧岩木町議会議員、平成19年弘前市議会議員。
現在、岩木山観光協会会長、岩木山商工会理事、岩木ライオンズクラブ、岩木ソフトボール協会会長、青森県議会議員。

～皆様のご意見、ご要望を斉藤ちかしまでお寄せください～



県政への質問、働きかけ

平成27年6月・11月議会一般質問 Q & A

Q 県議会議員って何をするヒト?

A みんなの目線で県政をチェックする人。みんなの声を聴いて、判断して、議論をつくす。それが、議員の仕事じゃないかな。Be happy together (共に幸福になる)

ちかしのPOINT!! あおもり米「青天の霹靂」の生産体制について

6月 第282回 定例会



Q 岩木地区における「青天の霹靂」の生産体制について

Q1 本県初の特Aを取得した「青天の霹靂」には、米価が低迷する中、農家、県民、消費者ともに大きな期待が寄せられています。しかし、岩木地区では作付できないという状況に疑問の声が多数寄せられました。なぜ、**旧岩木地域全域が作付不可能になったのか、また山間冷涼地とされ、作付可能区域から除外されたのか**が経緯をお伺いいたします。

A (農林水産部長) 弘前市岩木地区においては、県が稲作地帯区分を設定した当時、標高の高い水田が相当数あったことから、山間冷涼地帯と比較的条件のよい津軽中央地帯に区分されていました。

その後、昭和55年に大冷害が発生し、津軽中央地帯に区分されていた地域においても、収量、品質に著しい影響を受けたことから、稲作農家の経営安定を図る観点から岩木地区全体を山間冷涼地帯とする設定の見直しを行ったものです。

Q2 岩木地区における「青天の霹靂」の実証的な試験栽培が実施されていると聞き及んでおりますが、**実施状況と結果の取り扱いについて**お伺いいたします。

A (農林水産部長) 試験栽培については、弘前市の津軽中央地帯に隣接している岩木地区の平たん部において、10アール規模で2カ所行われており、市が農協等と連携しながら、草文や出穂期などの生育状況と収量を調査することになっています。

また、食味に大きく影響する玄米たんばく質含有率の測定や食味官能試験を行い、それらの結果をもとに、作付地域に含めるか否かを判断することとしています。

ちかしの要望

「青天の霹靂」が、いずれは日本を代表するような米に成長することを願ってやみません。

また、岩木地区同様の作付の問題が大鱈町でもあったと聞き及んでおります。

岩木、大鱈町においてもしっかりと「青天の霹靂」が作付できるような方策を心より要望申し上げます。



ちかしのPOINT!! 県産米の輸出促進について

6月 第282回 定例会



Q 県産米の26年産の輸出状況と輸出促進に向けた県の見解について

昨年の全農概算金は過去最低の価格になり、農家の皆様からは、再生産はおろか、生活すらできないとの声も上がりました。農家の皆様が再生産可能な米価を維持するためには、県が具体的な対策を講じることが必要不可欠であると考えます。そこで提案ですが、**青森県産米の輸出について**考慮してはいかがでしょうか？

A (観光国際戦略局長) 県産米の平成26年産の輸出状況については、前年産と比べますと約4倍と大幅に増加しており、大半が香港向けとなっております。これは、香港の日本食レストランで大口の引き合いがあったためと伺っております。

A (観光国際戦略局長) 県産米の輸出促進に向けた今後の取り組みについては、香港・台湾・シンガポールなどでの、市場開拓に向けた可能性調査やプロモーション活動を実施することとしております。県産米の知名度と評価の向上を図り、さらなる輸出促進につなげてまいります。

ちかしの要望

米も重要な輸出品目の一つとして今後力を入れていくということでありまして、大変楽しみです。

知事も、輸出について触れられておりましたので、その思いをしっかりと輸出につなげていただきたいと思っています。



ちかしのPOINT!! 子供の医療費無料化制度について

6月 第282回 定例会



Q 全国及び本県の子供の医療費助成の状況について

Q1 子供の医療費助成制度は、ほぼ全ての自治体で行われているようですが、対象年齢や所得制限の有無など中身はさまざまであり、県や市町村によって大きな格差が存在しています。自治体によって医療費の助成が異なるという格差は、国民としてあってはならない気がいたします。少なくとも県内市町村間の格差は解消すべきであると考えます。そこで、**全国及び本県の医療費助成の状況について**お伺いいたします。

A (健康福祉部長) 助成については、青森県では乳幼児から小学校未就学児童までを対象として、市町村で給付した乳幼児医療費の自己負担分に対し2分の1を助成しています。

また、県の給付対象と同じにしているのが6市町村、小学校卒業まで一部または全部を対象が3市町、中学校卒業まで一部または全部を対象が26市町村、高校卒業まで一部または全部を対象が5市町村となっております。

Q2 **子供の医療費無料化について県の見解**をお伺いいたします。

A (健康福祉部長) 無料化について県では、乳幼児の健康の保持増進、さらには保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的に、乳幼児はつらつ育成事業を実施しております。現在は入院、通院とも小学校未就学児童まで対象を拡大し、事業を実施しているところです。

ちかしの要望

子育て世代にとって医療費の無料化は非常にありがたいことでもありますが、少子高齢化においては必要なことであろうと思われまます。

近隣の秋田県や山形県では医療費の無料化が実施されており、子供を育てやすい環境がつけられている事は間違いのないことだと思います。

財政的な問題もありますが、さまざまな面を考慮した上で少しでもサービスが向上するような施策をお願いいたします。



ちかしのPOINT!! 観光振興費について

11月 第284回 定例会



Q 中国定期路線就航対策事業費の取組等について

Q1 北海道新幹線開業を前にして、県の取り組みに対して敬意を表したいと思います。それを踏まえて、**本県の中国観光客の現在の入り込み客数の現状**をお伺いいたします。

A (観光国際戦略局長) 国の宿泊旅行統計調査によると、前年の約2割増加しております。

Q2 開業前であるにもかかわらず非常に伸びているということが現実的にあるようですが、**それにつきまして、今後、杭州便等が入ってきます。誘客に対してどのように取り組むのか**をお伺いいたします。

A (観光国際戦略局長) 中国定期路線就航対策事業費といたしまして、現地旅行会社に対し、本県での宿泊を条件として一部の経費や広告経費等を本会議に計上し、ご審議いただいているところでございます。

Q3 **宿泊費助成の具体的な中身について**お答えいただきたいと思っています。

A (観光国際戦略局長) 青森県内で御宿泊される場合、1人1泊につき1,500円の支援をしていくという内容になっております。

ちかしの要望

さまざまな対策が必要ですが、本当に一つの大きなチャンスと捉え、杭州から45分、高速列車で行けば上海という大きな市場もございます。

そういったものを見据えた上で青森県を売り込むということで力を尽くし、意を持って取り組んでいただきたいと思っています。

